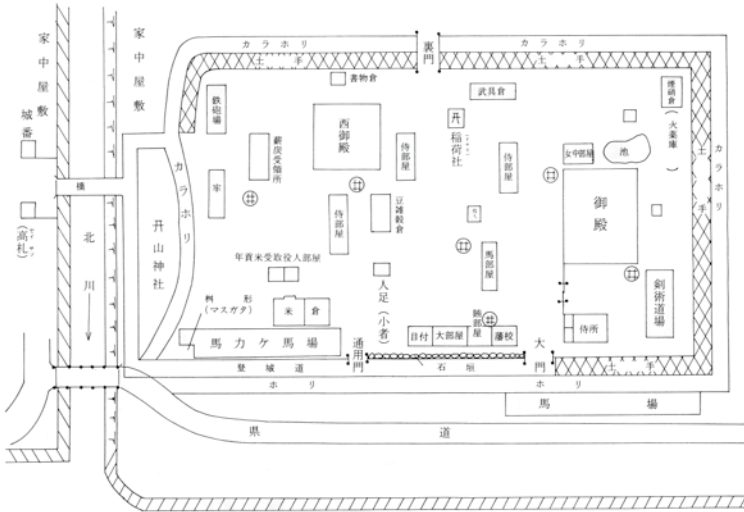


朽木陣屋の御殿に付属する 土蔵・台所・馬屋

朽木陣屋は、江戸時代に旗本であった朽木氏の屋敷で、高島市朽木野尻に所在していました。

この陣屋内の様子は、大正11年に作成された見取図から推測することができます。昭和58年度に行われた発掘調査では礎石建物跡が



大正11年 朽木陣屋見取図

発見され、25、706mの範囲が朽木陣屋跡として滋賀県の史跡に指定されました。

また、平成12年度の調査では、室町時代から機能していた堀・道・橋も見つかり、朽木氏の屋敷は、江戸時代末まで位置や規模をほとんど変えずに続いていたと考えられています。

平成20年度には、遺構の保存状況や内容を確認する目的で、陣屋中核部の発掘調査を実施しました。結果、土蔵と考えられる石列、台所や馬屋と考えられる礎石建物跡や石敷が見つかり、これらの建



土蔵 基礎 石列



馬屋と井戸

物跡は規則的に配置されています。土蔵は建物の基礎となる約40cmの川原石が直線的にならび、その外側には礎敷があり、犬走りと考えられます。土蔵の規模は、この犬走りの長さから桁行8間(15.76m)以上と推測されます。

台所は、調査区の北面で見つかりました。この石敷の石は、上面をそろえ規則的に配置されていますが、熱を受けたために赤く変色し、割れていました。石の配置や広がりから、かまどと焼き物や煮物などの調理を行う長囲炉裏と考えられています。

一方、調査区の南面では馬屋が見つかりました。一般的に馬をつなぐところは、おおむね1頭につき、間口2.1〜2.4m、奥行4m程度とされ、重い馬体を支えるために、土間に礫を敷きつめ、その上に板の床が設けられます。ここで見つかった礎石の柱間も、8尺(約2.4m)あり、そ

の中に礎敷が認められました。また、馬屋に属する井戸跡も見つかっています。

これらの遺構は、出土した土器から18世紀後半から19世紀前半に位置づけられ、陣屋の最終段階のものと思われる。

また、これらは御殿に付属する建物と考えられます。

見取図には、御殿の南面に馬屋が記されていることから、御殿は馬屋や台所の北方にあり、礎石などの遺構が残っている可能性が高いことが指摘されています。今後、適切な保存・活用が望まれる遺跡であるといえます。

図文化財課

(32) 4467

編集者のつづき

ぽかぽか暖かくなり、春の訪れを実感しています。春になると、お花見などが楽しみです。

表紙は、昨年撮影した朽木の桜並木の様子。開花に合わせ、今年も朽木鯖街道桜まつりが開催されます。(詳細はP 34 掲載) また、4月から5月にかけて、市内では、川上祭や海津力士祭、七川祭、大溝祭などなど特色ある数々の地域の祭りが催されます。春の陽気に誘われてお出かけしてみたいかがでしょうか。(広報担当S)